

いちご屋けんちゃん

いちご生産・観光農園
山口県山口市

今年もいちご狩りの季節がやってまいりました。山口県山口市で観光農園「いちご屋けんちゃん」を営む田中様は忙しい日々を送られています。田中様の作るいちごは、地元の方々に大人気！土日には各日100名以上の方がいちご狩りに来られ、時には県外からもいらっしゃるそうです。
今回は、おいしいと評判の「いちご屋けんちゃん」の生産現場とFFC活用方法をご紹介します！



生産者のお話



田中健一様

兼業農家の息子として生まれましたが、農業は泥だらけの“もんぺ姿”で農作業をするカッコ悪いイメージがあり、「農業はしたくない！」と思っていました。しかし、一人っ子で自分がしなければいけないと思ったとき、「どうせ農業するなら専業農家をしよう！」と決意。何をしようかと悩んでいる矢先にバイク事故に遭い、意識不明の重体で病院に運び込まれました。そのときにお世話をしてくれた看護婦さんの「いちごを作ったらいいじゃない」の一言でいちご農家になることを決めました。

いちご生産を始めたころは苦勞の連続で、丹精こめたこだわりのいちごを納得の価格で卸せないこともあり、“いちご狩り”農園に転換しました。

5年前にFFCとの出会いを経て、さらに良い品質になりました。特に明らかに変わったのは味です！皆様に食べて「おいしい」と言っていただけるようになりました。これからも、ここに来ないと食べられない“オンリーワンのいちご”を目指して頑張ります！



マスコットキャラクター

田中様のご友人が田中様をモデルに作成された、愛らしいキャラクターです。

事務所にも！

親株の定植

春（3月上旬頃）に1つのプランターに親株を2株ずつ定植します。そのときに各プランターにFFCエースを2にぎり入れています。



ただいま実験中！

親株を定植するためのプランターを、11月からFFCウォーターとFFCエースで水漬けしています。親株を定植してからどのような効果があらわれるのか、これからが楽しみです。



育苗

夏（6月～8月）に親株から子株（苗）を切り離します。1つの親株から30ほどの苗ができます。苗の生育時にはFFCウォーターで灌水と葉面散布をしています。



タンクの水はFFCウォーター

ハウスの外に設置されているタンクの中にはFFCセラミックスとFFCエースが入っています。FFCエースを入れてから水がとてもきれいに透き通ったそうです。



※上記はいちご屋けんちゃん様での使用例となります。

苗の定植

秋（9月）に苗を定植します。そのとき、FFCエースを反あたり4袋散布しています。また、栽培時の灌水や葉面散布はFFCウォーターを使用しています。



根元をのぞいてみると、FFCエースがたくさん見えました！



葉っぱも大きくイキイキとして健康そのもの！

収穫

冬から春（12～6月）にいちごが実ります。パイロゲン1,000倍希釈水を、週に一度は葉面散布しています。毎週末はいちご狩りが大盛況で大賑わいです。農薬の使用を極力抑え、やむを得ず使わなければいけない場合はほとんど食品由来の農薬を使用し、安全性を考えられています。



授粉役のミツバチも元氣いっぱい！



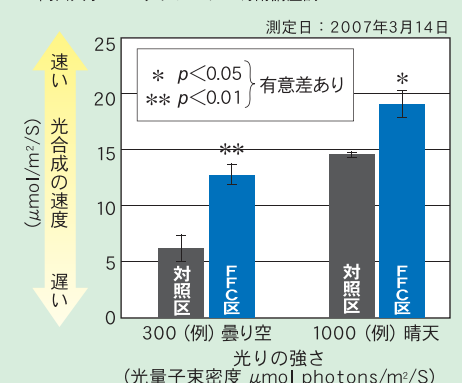
みずみずしくて甘～いいちごです！

FFCエースを使うと甘くなる？

植物は光合成を行って、体内で糖質を作っています。その糖質の一部が果実の中に蓄積されるため、光合成が活発になると果実が甘くなりやすいと考えられます。

FFCエースを使用して育てたオオムギは、FFCエースを使用していない対照区に比べて、光合成をより盛んに行っていました。いちご屋けんちゃんのいちごが甘くなったのは、いちごの光合成がオオムギと同じように活発になり、果実に蓄えられる糖分が増えたことが一因として考えられます。

オオムギの光合成量の比較実験



FFC活用の効果

いちごがおいしくなった！

いちご屋けんちゃんでは「さがほのか」と「べにほっぺ」という2種類のいちごを育てていますが、FFCを活用してから、いちごの味がおいしくなったそうです！特に「さがほのか」は収量が多く形も良いのですが、以前はここまでのおいしさを感じていなかった、とのこと。地元でも「けんちゃんのいちごはおいしい」と口コミで評判になり、いちご狩りが大盛況。毎週末は予約でいっぱいです。試食させていただきましたが、一口食べると口いっぱいにさわやかな香りと甘さが広がり、何個でも食べられてしまうおいしさでした。



お客様のお声

流動食をされている方が、「けんちゃんのいちごがおいしいと評判なのでどうしても食べたい！」と周囲の反対も聞かずに食べたそうです。その後、このことがきっかけで流動食ではなく普通の食事が食べられるようになったそうです！

けんちゃんのいちご狩りに子どもを連れて行ってから、子どもが「スーパーのいちごはおいしくない」と食べなくなってしまったそうです。

病気での全滅を免れた！

3年前、隣でいちごを作られている方のハウスのいちごが萎黄病にかかり、定植したいちご苗が全滅してしまいました。その方はあきらめず2回目の定植をするも、萎黄病により再び全滅してしまったそうです。同じ頃にけんちゃんのハウスでも、定植した2万本の苗が全て萎黄病に感染してしまいましたが、けんちゃんのハウスでは枯れずに全滅することなく、被害を4分の1程度に抑えることができ、おいしいいちごが収穫できたそうです。いちごの品種も病気も同じでしたが、けんちゃんのハウスのみ被害を抑えることができました。

